

ヤマボウシ(紅花)及びアカミノイヌツゲの挿木繁殖法

長 根 強・吉 池 貞 蔵*

(岩手県園芸試験場南部分場・*岩手県園芸試験場)

Propagation by Leaf-bud Cutting of Yamaboushi, Red Flower *Cornus kousa* Buerger, and
Akamino-inutsuge *Ilex sugerokii* Maxim. var. *brevipedunculata* S. Hu

Tsuyoshi NAGANE and Teizō YOSHIIKE*

(Southern Branch, Iwate Horticultural Experiment Station)
*Iwate Horticultural Experiment Station

1 は し が き

岩手県陸前高田市氷上山麓に自生するミヅキ科植物であるヤマボウシ(紅花), 及び一関市須川高原に自生するモチノキ科の常緑低木であるアカミノイヌツゲの繁殖法について, 昭和54年から56年まで3年間, 挿木方法, 挿木時期, ホルモン剤等の効果について検討したので, その結果を報告する。

2 試 験 方 法

(1) ヤマボウシ(紅花)の挿木繁殖法

試験年次: 昭和54年

ホルモン剤の処理法, ①無処理(水浸漬) ②オキシベロン50倍液 ③同100倍液 ④同500倍液 ⑤オキシベロン1.0%粉衣 ⑥同0.5%粉衣 ⑦ルーション粉衣

挿木方法は天挿し及びかかと挿しとし, 挿木時期は7月18日, 挿木用土は鹿沼土を用い箱挿しとする。管理方法は高温期(7~8月)は黒寒冷紗被覆とし, かん水を行った。

ホルモン剤処理法については, 液剤の場合は1昼夜穂木を浸漬, 粉剤は挿木直前に切口に粉衣した。

試験年次: 昭和55年

挿木時期は①伸長初期(6月25日), ②伸長期(7月8日), ③伸長中止期(7月25日)1区10本, 2区制とし, かかと挿しをした。

試験年次: 昭和56年

挿木時期は①3月25日, ②5月25日, ③6月10日とし, これにホルモン剤を併用して検討した。ホルモン剤は①無処理, ②オキシベロン50倍液, ③オキシベロン1.0%粉衣 ④ルーション粉衣区を設け実施した。1区, 20本, 2区制。

(2) アカミノイヌツゲの挿木繁殖法

試験年次: 昭和54年

①新梢天挿し, ②新梢かかと挿し, ③2年枝挿し, ④3年枝挿しの4区を設け, 1区10本3区制とし挿木時期は7月11日とした。挿木方法や挿木後の管理はヤマボウシ(紅花)同様である。

試験年次: 昭和55年

2年枝を用い①無処理 ②オキシベロン50倍 ③同100倍 ④同500倍 ⑤同0.5% ⑥ルーション区を設け, 1区20本2区制で実施, 挿木時期は7月8日とする。

試験年次: 昭和56年

3年枝を用い①無処理 ②オキシベロン50倍 ③同100倍 ④同粉剤1.0%区を設け実施した。

挿木時期は7月10日とし, 挿木用土, 並びに挿木後の管理はヤマボウシ(紅花)同様である。

3 試験結果及び考察

(1) ヤマボウシ(紅花)

昭和54年度の結果をみると, 無処理区の比較では, 天挿し, かかと挿しによる明らかな差は認められなかった。

ホルモン剤による効果は, 天挿しでは判然としなかったが, かかと挿しでは高濃度のものが発根効果は高い傾向が認められ, 液剤処理では, オキシベロン50倍液区が高く, 粉剤ではオキシベロン1.0%切口粉衣区の効果が高かった。

表1 ヤマボウシ(紅花)の天挿し, かかと挿しとホルモン剤の効果(昭54)

試 験 区		発 根 本 数				無発根数	発 根 率 (%)			
		少	中	多	計		少	中	多	計
天 挿 し	① 無 処 理	2	0	0	2	8	20	0	0	20
	② オキシベロン 50倍	1	0	1	2	8	10	0	10	20
	③ " 100倍	1	0	0	1	9	10	0	0	10
	④ " 500倍	1	0	0	1	9	1	0	0	10
	⑤ " 1.0 %	0	2	2	4	6	0	20	20	40
	⑥ " 0.5 %	0	0	1	1	9	0	0	10	10
	⑦ ル ー ト ン	2	0	0	2	8	20	0	0	20
か か と 挿 し	① 無 処 理	1	0	1	2	18	5	0	5	10
	② オキシベロン 50倍	3	0	7	10	10	15	0	35	50
	③ " 100倍	0	1	4	5	15	0	0	20	25
	④ " 500倍	2	0	1	3	17	10	0	5	15
	⑤ " 1.0 %	1	3	2	6	14	5	15	10	30
	⑥ " 0.5 %	3	0	0	3	17	15	0	0	15
	⑦ ル ー ト ン	3	1	2	6	14	15	5	10	30

昭和55年度の挿木時期の結果では、表示していないが伸長初期区が最も発根率が良く、次いで伸長期であり、伸長中止期は最も悪かった。また、56年度においては55年度の結果を生かして、3月25日、5月25日、6月10日の3回にわたり挿木を行い、更にホルモン剤処理を行った結果、3

月25日、すなわち休眠期挿しでは、オキシベロン50倍水溶液区がわずかに発根が認められた程度であった。また、各区共に伸長期前である6月10日挿しでそれぞれ発根率が高く、ホルモン剤処理については54年同様高濃度で発根率が高かった。

表2 ヤマボウシ(紅花)の挿木時期とホルモン剤の効果(昭56)

試 験 区		発 根 本 数				無 発 根 数	発 根 率 (%)			
		少	中	多	計		少	中	多	計
① 無 処 理 区	3月25日	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	5月25日	2	5	2	9	31	5.0	12.5	5.0	22.5
	6月10日	3	9	5	17	23	7.5	22.5	12.5	42.5
② オキシベロン50倍区	3月25日	0	5	2	7	33	0	12.5	5.0	17.5
	5月25日	4	11	5	20	20	10.0	27.5	12.5	50.0
	6月10日	6	12	7	25	15	15.0	30.0	17.5	62.5
③ オキシベロン1%粉衣区	3月25日	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	5月25日	7	6	4	17	23	17.5	15.0	10.0	42.5
	6月10日	2	12	6	20	20	5.0	30.0	15.0	50.0
④ ルートン粉衣区	3月25日	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	5月25日	2	8	6	16	24	5.0	20.0	15.0	40.0
	6月10日	6	7	6	19	21	15.0	17.5	15.0	47.5

注. 発根本数: 少ない…… 1~3本, 中…… 4~5本, 多い…… 6本以上

表3 アカミノイヌツゲの挿木位置の発根率(昭54)

試 験 区	発根本数				無本 発 根 数	発根率(%)			
	少	中	多	計		少	中	多	計
① 新梢天挿し	3	6	6	15	15	10	20	20	50
② 新梢かかと挿し	5	6	6	17	13	17	20	20	57
③ 2年枝挿し	2	0	9	11	19	7	0	30	37
④ 3年枝挿し	2	4	8	14	16	7	13	27	47

注. 発根調査(3区平均 11月20日調)

表4 アカミノイヌツゲのホルモン剤の効果

試 験 区	発根本数				無 発 根 数	発根率(%)			
	少	中	多	計		少	中	多	計
① 無 処 理 区	8	5	0	13	27	20.0	12.5	0	32.5
② オキシベロン50倍区	11	9	6	26	14	27.5	22.5	15.0	65.0
③ オキシベロン100倍区	10	6	1	17	23	25.0	15.0	2.5	42.5
④ オキシベロン1.0粉衣区	9	7	5	21	21	22.5	17.5	12.5	52.5

注. 発根調査(11月13日調) 40個体

(2) アカミノイヌツゲ

昭和54年度の結果では、新梢から3年枝の範囲では、挿木位置による明らかな差は認められなかった。55~56年度の結果では、挿木時におけるホルモン剤処理は液剤オキシベロン50倍区、100倍区粉剤1.0%粉衣区共に良く、無処理

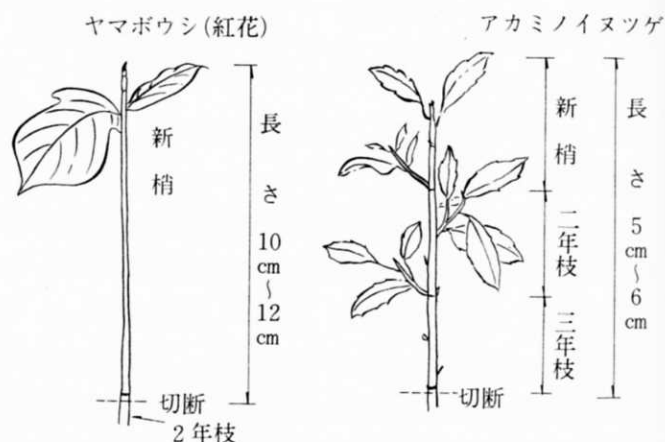


図1 ヤマボウシ(紅花), アカミノイヌツゲの穂木の調整

区に比べて、ホルモン剤処理区はいずれも発根率が優った。

4 ま と め

ヤマボウシ(紅花)の挿木繁殖法はかかと挿しとし、挿木時期は新梢伸長期が最も良い(岩手県南部沿岸では6月10日~6月25日ところに当たる)。

ホルモン剤による効果は高く、オキシベロン50倍水溶液に穂木を1昼夜浸漬するか、粉剤ではオキシベロン1.0%を切口粉衣し挿木直前に行くと発根率が高いことが判明した。

アカミノイヌツゲでは、挿穂は1~3年枝まで使用できるが、実用的には3年枝挿しが有利である。挿木時期は7月上, 中旬である。ホルモン剤による発根効果はヤマボウシ(紅花)同様であることが判明した。